地域協働学校だより No.7

平成３０年１０月３０日
新宿区立市谷小学校
地域協働学校運営協議会

「地域協働学校運営協議会」からのご報告です
　10 月 20 日(土)の道徳授業地区公開講座では NHK のＥテレで多くの子供向け教育番組を手掛けるプロデューサーの佐藤正和さんにお越しいただき講演がありました。1，2，3 年生児童と参観者が参加した講演会に続いて、参観者と講師との質疑応答も行われました。見学させていただきましたのでご紹介いたします。

道徳地区公開講座　シンキング・ディープリー　～深く考える　自分と他者の理解～

道徳って何？

　佐藤さんの道徳地区公開講座は「道徳って何？」という質問から始まりました。児童たちは 1，2 時間目に道徳の授業を受けたばかりです。
　佐藤さんの答えは「道徳とは、社会の中でいろんな人とうまくつきあっていくための考え方」。そのためにはどうしたらいいのかな？幸せに生きるにはどうしたらいいのかな？と、問いは続きました。

なんでもいい、ふかーく考えてみよう

ふかーく考えてみよう。そうすると、広い視野で落ち着いて物事が判断できるようになるよ。でもどうやって「ふかーく」考えたらいいんだろう？
　「なんで？」「なんで？」と繰り返してみよう。でも何を考えたらいいんだろう・・・。ここでびっくりするような例が出てきました。繰り返される「なんで？」に児童たちは積極的に手をあげて答えていきました。

＜例１＞「やったー！でっかい鼻くそが取れた！なんかうれしい！」
「ん？**なんで**大きい鼻くそはうれしいんだろう？」→「デカいから！」
「**なんで**デカいとうれしいんだろう？」→「珍しいから！」
「**なんで**珍しいとうれしいいんだろう？」→「めずらしいものってワクワクするから！」
＜気付き＞人は珍しいものを見ると、面白いし大切にしたいという特別な感情をもつんだなあ。

＜例２＞　お母さんは電話だときれいな声を出す。**なんで？**
→自分をよく思わせたいからかな。でも、**なんで？**→相手と良い関係をつくりたいから。→じゃあ、**なんで**家族とはきれいな声で話さないの？→もういい関係ができているから！
＜気付き＞きれいな声で話している間はまだいい関係がつくれていないのかもしれない。

　児童たちからは様々な答えが次々に出てきました。**なんで？**を繰り返して考えると、気付くことがたくさんありました。三つ目の例は「お金があれば本当に幸せか？」でした。ご家庭で**なんで？**をやってみてください。

ふかーく考える方法とそこから身につくもの

佐藤さんの「ふかーく考える方法」は 3 つあります。①自分と対話する（なんで？）、②友達や家族と対話する（なんで？）、③Q ワードで考えを深める。
Q ワードとは
「本当に？」（疑ってみる）
「もし～だったら？」（想像してみる）
「立場を変えると？」（別の人の気持ちになる）
「この反対はどうなるの？」（あえて反対で考える）

そうやって考えを深めていくと、こんなことが起こります。
①かしこく考えられるようになる。
②本当の自分が見えてくる（自分の好きなこと、嫌なこと、やりたいこと）。
③自分が納得できる答えがもてる。
④それが幸せに生きるための「ものさし」になる

→自分が幸せに生きていくための**「ものさし」**を持つこと、それが道徳の目的なんです。

考えようとしないと考えられないよ　「ふか～く考えてみよう！」

番組制作者として

講演会に続いて参観者と講師との活発な質疑応答が行われ、「考える」ことから番組制作の裏話まで様々なお話を伺うことができました。概要をまとめました。

佐藤正和さん

1975 年生まれ。東京都出身。中央大学法学部卒。96 年ＮＨＫ入局。「ピタゴラスイッチ」「シャキーン」「デザインあ」「ノージーのひらめき工房」「テイクテック」「Q～子供のための哲学」、「JAPANGLE」といった子供向けの教育番組を手掛けて現在に至る。新たに企画したユニバーサルデザイン教育番組「u&i」が 10 月からスタート（水曜午前 9 時 E テレ）。

「自分の手掛けている番組については、その役割はきっかけづくりだと考えています。今のテレビは“ながら視聴”で、明確なメッセージが伝わりにくいし、大人が絶対正しい答えを持っている訳でもありません。世の中が変化していく中、「今まで通り」にしているだけではうまくいかなかったり、明確な答えがないような状況に行き当たったりします。その時には自分で考えなければならなくなるんです。答えを提示するというより、「考えるプロセス」を提示したいという思いがあります。

一方、現代の子供たちは「ぼーっとする時間」が少ない。自分を見つめる時間、考える時間が足りない。自分は子供時代絵が好きで、チラシの裏に絵を描きながらいろいろなことを想像していました。それは今の自分の糧になっていると思います。その頃はそういったゆったりした時間がありましたが、今は社会が子供に要求するものも多いし、不安な親もいろいろ与えてしまうので子供は忙しい。「考える時間」を意図的にとらないと考えられないので、「Q～子供のための哲学」という番組では 45 秒間の Thinking Time を挿入してあります。「哲学」とは「根源」ですから、「見つめなおすこと」と言い換えられるんです。

もう一つ、こういった番組を作りたいと思った理由ですが、物と情報が溢れていても幸せになれていない人がいる現代社会で、今は何かに迷った時にも調べればすぐにいろいろな答えが出ますが、一方で自分にとって良い情報を選択する力が重要になっています。「自分が欲しいものはなにか」、「自分はどうしたいのか」など自分を知ることが大切。人の意見に従うだけだと、失敗したときに人のせいにしてしまいがちです。自分のものさしに従って自分で選択したことなら、結果がどうなっても納得できるはずですから。」

（具体的な教育番組作りについての質問に対して）
「専門家の先生や教師も含めた番組委員で企画しています。プロデューサーとして念頭に置いているのは「その年頃だった自分に向けて作る」こと。当時の自分にわかるか、面白いかを意識しています。E テレの子供向け番組は幸い共感のご意見を頂くことが多く、外部から直接番組の方針に反対意見をいただいたことは今のところありません。

「ピタゴラスイッチ」のピタゴラ装置は、佐藤雅彦先生（東京芸術大学）のゼミの学生さんが、年に 2 回のピタゴラ装置合宿で 4 日間スタジオに泊まり込みで作ります。1 回の合宿で６～８の装置を作りますが、その撮影が大変です。失敗するたびに原因の検証、修正、次のテイク、さらに修正と、あの奇跡の 1 回を収録するのに 100 テイクくらい撮ります。

「デザインあ」というデザイン入門の番組は、デザインの大切さを映像と音楽だけで伝えようという試みです。映像マッサージと呼んでいますが、気持ちよい音楽と気持ちよい映像がシンクロすると、見る人を集中させ面白いと感じさせるようです。理解というより感覚、感覚を育むことにつながると考えています。」

興味深いお話をたくさん伺うことができました。佐藤さんありがとうございました。